

(別紙 9)

秋田県におけるクマ類の調査の実施に係る評価報告(R7 当初)
(調査・計画策定事業)

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

本県では、平成 29 年から令和元年までカメラトラップ調査及びベイス推定による生息数推定を実施し、平成 2 年 4 月時点で、県内の生息数を 2,800～6,000 頭(中間値 4,400 頭)と推定したが、令和 5 年度には大量出没に伴い 2,334 頭を捕獲した。このことを受けて、最新の生息状況を把握する必要があるため、令和 6 年度から 2 年間の計画で生息数推定に係る調査を実施しているところである。

2 実施する調査の具体的な内容等

実施時期	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
場所	秋田県内 2 地区
目的・必要性	現状における個体数推定を改めて行う必要があるため
調査主体	環境調査会社
内容・得られる情報	各調査地区における生息密度とそれを基にした全県の推定生息数
方法	委託により実施
活用方法	特定鳥獣管理計画の基礎資料として活用する
事業費	16,000 千円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

令和 6 年度から継続して、県内 2 地域においてカメラトラップ調査を実施し、その結果をもとに令和 8 年 4 月時点での生息数を約 2,400～5,800 頭（中央値 3,900 頭）と推定した。
今後、この推定生息数を基にして特定鳥獣管理計画を進めていく。

注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

4 その他

--

注 1：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。